

倉吉歴史探訪

Kurayoshi Rekishi Tanbou

- ・里見氏と倉吉
- ・南総里見八犬伝
- ・倉吉周辺 里見ゆかりの地
- ・倉吉のまちの成り立ち
- ・倉吉を彩る歴史
- ほか

倉吉市は鳥取県中部に位置し、かつては伯耆国庁や伯耆国分寺・尼寺などが置かれて伯耆国の中心地として栄えた。室町時代に打吹山のふもとに形成された城下町は江戸時代末期から大正時代にかけて、稲扱千歯や倉吉餅を全国に販売して財を成した商家などによって発展を遂げてきた。時代は移り、かつての繁栄の面影を今なお残す町並みが人々の心をとらえ、多くの観光客を集める観光地となっている。



©倉吉八犬伝 / 倉吉観光MICE協会

昭和の時代、「南総里見八犬伝」が一躍脚光を浴びた。昭和45(1973)年からNHKで放送された人形劇「新八犬伝」。約2年間にわたって夕方の時間に464回が放送され、人形作家・辻村ジュサブロー(寿三郎)さん(1933～2023年)が手掛けた人形の活躍に多くの子どもたちが熱狂した。

原作からは曲亭馬琴の他の作品の要素を取り込んで設定が変更されているが、夕方の15分番組でありながら平均視聴率は20%を超える人気番組となった。

歌手でタレントの坂本九さん(1941～1985年)が黒子で登場し、その口上でも人気を集めた。挿入歌「仁・義・礼・智・信・孝・悌」を子どもたちが口ずさんだ。



辻村さんの人形制作風景

人形劇『新八犬伝』と人形、そして倉吉

強烈な印象を残したのが辻村さんが手掛けた人形の数々。犬塚信乃(いぬづか・しの)ら八犬士や伏姫(ふせひめ)、犬の八房(やつふさ)が番組を盛り上げた。「われこそは、玉梓が怨霊…」の決め台詞で登場する玉梓の人形は辻村さん自らが巧みに操ったとされ、恐ろしい表情でひとときわ迫力を見せる。



迫力のある表情を見せる、辻村さん制作による玉梓の人形



辻村さん制作による人形 左：犬飼現八、右：八房

辻村さんは亡くなったが、弟子の清水英寿さん(1961年～)に人形作りが受け継がれている。「新八犬伝」に登場したオリジナルの人形は失われてしまったものも多いが、清水さんが創作にも取り組んでおり、現在も全国各地で展示される機会は多い。

実はこの番組も倉吉とゆかりがある。当時NHKのディレクターとして番組を手掛けた波田野紘一郎さん(1939年～)＝神奈川県在住＝は倉吉市の出身。その証拠に「新八犬伝」には、原作にはない大山が舞台になった回もある。辻村さんの人形を採用したのが大当たりし、その後も辻村さんとタッグを組んだ番組を作った。



左：辻村さんの人形制作を受け継ぐ弟子の清水英寿さん
右：清水さんが手がけた犬塚信乃の人形

倉吉歴史探訪

《制作・発行》倉吉せきがね里見まつり実施委員会

(一社)倉吉観光MICE協会 tel.0858-24-5371

《協力》館山市、館山市立博物館、館山市観光協会、南房総市、鳥取県立博物館、倉吉市、倉吉博物館(順不同)

デフォルメキャラクターイラスト制作：秋楽青

2025.09

里見氏と倉吉

里見氏は新田氏を祖とする足利氏の一族。その一流である安房里見氏は戦国時代、安房国（現在の千葉県南部）及び房総半島を勢力下に収めて戦国大名として君臨し、里見義弘（1578年没）の時代に最盛期を迎えた。

館山藩主時代

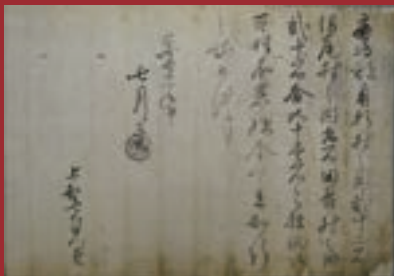
関ヶ原の戦い後も安房国を拠点に生き残りを果たした里見氏。里見義康は館山藩12万2千石の大名になったが、慶長8（1603）年に死去し、10歳の嫡男・梅鶴丸が家督を継ぎ領国経営に当たった。

事実上の配流で倉吉へ

梅鶴丸は慶長11（1606）年に元服し、将軍・徳川秀忠より一字を賜って忠義と名乗った。転機が訪れたのは慶長19（1614）年9月。突如安房国を没収され、伯耆国倉吉3万石に国替えとなった。妻の祖父・大久保忠隣の実脚に連座する形で事実上の配流であった。



里見義康 『英名百雄伝』(国文学研究資料館所蔵)を改変 出典:国書データベース, <https://doi.org/10.20730/200008429>



上野文書 里見忠義知行充行状 館山市立博物館 所蔵

倉吉での忠義

忠義と家臣らは現在の賀茂神社（倉吉市葵町）近くの神坂村に屋敷を与えられたが、実際に与えられたのは3万石ではなく4千石。元和3（1617）年には百人扶持（ぶち）とされて下田中村（現在の同市下田中町）へ、さらに堀村（現在の同市関金町堀）へと移された。

29歳で死去

不遇な中、忠義は元和8（1622）年に29歳の若さで死去し、大岳院（倉吉市東町）に葬られた。里見氏は嗣子なしとして改易された。

忠義の死後、8人の家臣が殉死し、同じく大岳院に葬られた。8人の戒名にはそれぞれ「賢」という字が付けられ、「八賢士」と称えられたと伝わる。



里見忠義主従乃廟 看板



倉吉せきがね里見まつり 神事



里見忠義主従乃廟



大岳院の墓所

南総里見八犬伝

なんそうさとみ
はっけんでん

『南総里見八犬伝』は江戸時代後期に曲亭馬琴によって著された長編小説。全98巻、106冊からなる大作で28年かけて書き継がれ、大ベストセラーになった。



曲亭馬琴肖像
館山市立博物館 所蔵

題材にした作品
刊行中には既に歌舞伎の演目になったほか、現在に至るまで文学やドラマ、映画、さらにアニメやゲームなどに大きな影響を与えている。

翻案小説には角川映画『里見八犬伝』（1983年）の原作になった『新・里見八犬伝』（鎌田敏夫）のほか、2024年10月に公開されたキノフィルムズの映画『八犬伝』の原作『八犬傳』（山田風太郎）などがある。

またテレビドラマとしてもたびたび放送され、中でも人気を博したのが辻村寿三郎（ジュサブロー）さん制作の人形が演じたNHKの『新八犬伝』。1973年から75年にかけて放送され、大人気となった。薬師丸ひろ子さんらが出演した映画『里見八犬伝』（1983年公開）は薬師丸さんの人気もあって大ヒットした。

ストーリー

室町時代、戦乱の続く安房国や関東が舞台。里見家の姫・伏姫と八房の因縁を発端に、「仁義礼智忠信孝悌」の八つの霊玉を持つ八犬士が登場。因縁に導かれて集まった八犬士たちは里見家の家臣として里見家の危機を救う。



『南総里見八犬伝』
館山市立博物館 所蔵



犬塚志乃 館山市立博物館 所蔵



とみさん

©南房総市

富山（千葉県南房総市）

旧安房国に当たる千葉県南房総市にある富山（とみさん）は、富山（とやま）の名前で『南総里見八犬伝』に登場し、重要な舞台になっている。山中には「伏姫籠窟」と呼ばれる洞窟と八房の墓とされる「犬塚」があり、「八犬士終焉の地」の標柱も立つ。

里見のまちづくり

館山市では、昭和57(1982)年から「南総里見まつり」が開催されていたが、令和4(2022)年からは、従来の1日開催のイベントではなく、年間のキャンペーン事業「里見のまちづくり」に衣替え。8月の館山湾花火大会やLEDランタンを一斉に飛ばす「ランタンナイト」、デジタルスタンプラリー、各種ツアーなどが行われている。

スカイランタン®in館山城



©館山市

館山城（千葉県館山市）

里見氏の最後の居城である館山城跡に建てられた、ロマンあふれる天守閣形式の八犬伝博物館。館内には『南総里見八犬伝』に関する資料を展示している。

里見ゆかりの地



犬塚 孝弥 (いぬづか きょうや)
© 倉吉八犬伝 / 倉吉観光 MICE 協会



神坂村屋敷跡 (倉吉市東町)

安房国から移封された里見忠義がわずかな家臣と共に倉吉に赴いた際、最初にこの地に屋敷を構えた。この地で約3年をすごした後、下田中村へと移った。



大岳院 (倉吉市東町)

だいがくいん



慶長10(1605)年、当時打吹城主を務めていた中村栄忠が、父の菩提寺として倉吉市東町の現在地に創建した曹洞宗の寺院。里見忠義は倉吉に移封された際、大岳院門前の神坂村の地に屋敷を与えられて暮らした。忠義が寄進した「三彩稜花刻花文盤(県指定保護文化財)」が寺宝として伝わる。忠義は遺言により大岳院に葬られ、後に殉死した8人の近臣とともに眠っている。境内には8匹の犬の像が置かれている。

毎年9月第1日曜日に行われている里見時代行列では出発を前に法要が営まれ、行列が勝どきの声と共に出発していく。



勝宿禰神社 (倉吉市下田中町)

かつすくね
じんじゃ

倉吉市を北流する天神川の左岸にある古社。里見忠義が元和3(1617)年に神坂村から移された際の住居はこの神社付近であったと伝わり、忠義は約2年間この地で暮らした。往時を思わせるものは何も残っていないが、隣接する民家には「里見井戸跡」がある。江戸時代後期の遊行僧で全国を巡って造仏したことで知られる木喰(もくじき)上人が彫った木造稲荷像(県指定保護文化財)が伝わる(現在は倉吉博物館に寄託)。



山長神社 (倉吉市森)

やまおさ
じんじゃ

里見忠義が元和6(1620)年に社殿を修復したとされる神社。北谷地区の総氏神さまとして今現在も大切にされている。



北野神社 (倉吉市北野)

きたの
じんじゃ

衰退していた神社を忠義が元和2(1616)年に再建したと伝わる。大幅な減封に遭った忠義だが、いまだに寄進するだけの財力はあったようだ。



犬川 水義 (いぬかわ みずき)
© 倉吉八犬伝 / 倉吉観光 MICE 協会



里見忠義主従之廟 (倉吉市関金町堀)

さとみただよし
しゅじゅうのびょう

山郷神社の西側、忠義が最後に暮らした屋敷跡と推定される場所に立っており、忠義と8人(6人とも)の家臣を祀っている。廟の後ろには市の保存樹に指定されている樹齢約400年の「里見屋敷のシイ」と呼ばれる大木がある。このシイの木に主従の怨霊がとどまり、切れば祟るという伝承がある。周辺には「安房守様」と呼ばれる塚がある。



北条八幡宮 (北栄町北尾)

ほうじょう
はちまんぐう

源氏の流れをくむ里見忠義は、源氏の守護神である八幡神をまつる社殿を修復している。忠義が社殿を修復した元和2(1616)年の棟札には無念の思いと安房国への帰還の願いが記されている。

倉吉のまちの成り立ち

伯耆国の中心地

倉吉は鳥取県のほぼ中央部に位置し、古代には伯耆国の中心地であり、現在の市街地西方の丘陵上に国庁、国分寺、国分尼寺が置かれた。伯耆国庁跡、法華寺畑遺跡、不入岡遺跡が「伯耆国府跡」として、隣接する伯耆国分寺跡と共に国の史跡に指定されている。

国庁跡は、奈良〜平安時代に伯耆国を治めた役所跡。法華寺畑遺跡は当初は役所として使用され、後に国分尼寺に転用されたと推定される。現地では四脚門の西門と

掘立柱塀の一部が実物大で復元されている。国分寺跡では塔、金堂、講堂、回廊の跡などが確認され、史跡公園として整備されている。不入岡遺跡は国庁の前身となる施設が後に国府に関連する倉庫群に転換されたと考えられている。

時期的に、万葉歌人として知られる山上憶良が国司として赴任していたのは不入岡遺跡であると思われる。倉吉の地で憶良が歌を詠んだかもしれないが、残念ながら伝わっていない。



かつては打吹城が築かれ、伯耆国の経済の中心として栄えた倉吉のシンボル打吹山(標高204m)



倉吉陣屋絵図 鳥取県立博物館所蔵

城下町の成立

中世の倉吉の様子を伝える文書はほとんどないが、小鴨氏など国人領主が勢力を伸ばしたことが知られる。南北朝時代になると因幡・伯耆両国の守護だった山名時氏が田内城を、その嫡男・師義が打吹城を築いて勢力を誇ったと伝わる。

田内城下は「見日千軒」と呼ばれて栄えたが、天文13(1544)年の天神川と小鴨川の氾濫で町全体が流失したため人々は打吹山のふもとに移り住んだとされる。打吹城下は南条氏のもとで整備されて現在の市街地へとつながった。

関ヶ原の戦いで西軍についた南条元忠が改易されると、倉吉は、米子藩主となった中村一忠の所領に。その後、中村氏の断絶などを経て、池田氏の因伯耆国への転封で鳥取藩の所領となった。

寛永9(1632)年に岡山から国替えになった池田光仲の下では、家老職にある家に拠点を統治させる「自分手政治」が行われた。倉吉には荒尾氏が配され、元和元(1615)年の一国一城令で廃城となった打吹城のふもとに倉吉陣屋が設けられ、荒尾氏による統治が行われている。



犬山 国忠 (いぬやま くにただ)
© 倉吉八犬伝 / 倉吉観光 MICE 協会

鉄器生産で繁栄

打吹城は廃城になったものの、城下のまちは商工業の中心地として発展を続けた。

特に盛んだったのが鉄製品を生産。古来、中国山地は良質な砂鉄と豊かな森林資源を背景に「たたら製鉄」が盛んで、刀剣や農具をつくる優れた鍛冶職人が育った。

刀剣については名刀「童子切(国宝)」の作刀で知られ平安時代に活躍した安綱の住まいが現在の同市大原にあったと伝わる(異説あり)。このほかにも弓削正綱(藤原正綱とも)、広賀、宮本包則などそれぞれの時代に名を残す刀工が倉吉とその周辺で生まれている。

また鋳物の生産も盛んで、倉吉市の上小鴨地区には5軒の鋳物師が居住し、江戸時代以降昭和初期まで農具や日用品までさまざまな鉄製品を生産していた。

全国シェア8割の稲扱千歯

鉄製品の中でも倉吉を特徴づけるのが稲扱千歯(千刃)の生産。収穫した稲穂から粃をしごき取る道具で、それまで竹製の扱き簀が使われていたが江戸時代に鉄製の稲扱千歯が考案された。倉吉では18世紀に製



稲扱千歯 からみの作業場(明治末〜大正時代) 倉吉博物館所蔵



稲扱千歯 倉吉博物館所蔵

倉吉緋も名声

また、倉吉緋も全国に広まった。緋は、あらかじめ染め分けた糸を使って文様を織り出す織物で、倉吉では文政年間(1818〜30年)に始まったという。倉吉緋を特徴づけるのが絵画的な文様を表現した「絵緋」で、松竹梅、鶴亀といった吉祥文などの製品が人気を博した。

倉吉緋は柄の精緻さが博覧会などで高い評価を受け、緋産業は明治にかけて急速な発展を遂げた。稲扱千歯と倉吉緋は倉吉に大きな



◀ 倉吉ふるさと工芸館では、倉吉緋の展示販売のほか、織り体験も可能。

倉吉を彩る歴史

倉吉市打吹玉川 伝統的建造物群保存地区

倉吉のまちは、南側の本町通り、北側の新町通りの間に、打吹城の外堀と考えられる人工的な河川である玉川が東流し、これらに沿って東西に長く形作られた。

江戸時代後期から稲扱千匁、倉吉緋の販売が拡大し、産業の発展に伴って人口も増加、財を成した商人階層が本町通り沿いに屋敷を構えるなどしてまちが発展していった。

大正時代に入るとこれらの産業が衰退し、かつての中心市街地の様相は変わっていった。昭和に入ってから高度成長期には本町通り沿いもまだ勢いがあつたが、大型小売店の進出、倉吉駅周辺への商業機能の集積などもあつて空洞化が進み、空き店舗や空き家などが増える状況にあった。

こうした中、町並みを残そうと平成10（1998）年に4.7ヘクタールが重要伝統的建造物群保存地区に選定され、平成22（2010）年には西側の4.5ヘクタールが追加されて9.2ヘクタールとなっている。

本町通り沿いには町家が立ち並び、玉川沿いには漆喰と焼杉のコントラストが美しい土蔵群と石橋が連続する。雪や寒さにも強い赤褐色の石州瓦の屋根、装飾を施された軒周りの腕木や持送り板、腰格子、出格子などに地域独自の特色がある。



大江山神社

大江磐代

湊町に「光格天皇御生母誕生地」の石碑がある。

光格天皇は安永8（1780）年から文化14（1817）年在位の第119代天皇で、明治天皇の曽祖父に当たり、今上天皇からは7代前の天皇。その生母である大江磐代は倉吉の生まれだ。

大江磐代は延享元（1744）年、倉吉を治めていた鳥取藩の家老・荒尾氏の家臣だった岩室宗賢と、町娘・おりんと間に生まれた。9歳の時に父と共に京都に上り、内親王の侍女に。内親王が閑院宮典仁親王に嫁ぐとその女房となり、5人の皇子をもうけた。長男が天皇の座についたことで生母となった。

典仁親王死後は蓮上院と号し、文化9（1812）年に69歳で没した。打吹公園内には大江磐代を祀った大江山神社（仲ノ町）がある。



犬江 嶺仁朗（いぬえ れいじろう）
© 倉吉八犬伝 / 倉吉観光 MICE 協会



天女壁画（打吹小学校）

打吹天女

うつぎてんにょ

倉吉のシンボル「打吹山」（標高204メートル）の名前の由来ともなったのが天女伝説。地上に降りて水浴びをしていた天女が百姓に羽衣を隠され、そのまま百姓と結婚して二人の子どもに恵まれる。ある時、天女は隠されていた羽衣を見つけ、天上の世界に戻ってしまう。残された二人の子どもは打吹山に登って鼓を打ち、笛を吹いて嘆き悲しんだといい、「打吹山」の名がつけられたとされる。



玉川沿いの白壁土蔵



赤瓦



本町通り

旧牧田家住宅（倉吉淀屋）

くらよしよじや

東岩倉町二三八〇
八五八一三三〇一六五

大阪・淀屋橋にその名を残す豪商「淀屋」。江戸時代の大坂で米市場を立ち上げるなど繁栄を極めたが、その豪奢な生活ぶりが見とがめられ、宝永2（1705）年に關所（けっしよ）取り潰し）処分を受けた。

東岩倉町に残る旧牧田家住宅（市指定保護文化財）は、主屋が宝暦10（1760）年に建設された、倉吉に現存する最古の商家建築で、倉吉市によって保存修理工事が行われ、付属屋と共に一般公開されている。また、新町1丁目の大蓮寺には歴代の淀屋清兵衛の墓が残されている。

大阪・淀屋橋にその名を残す豪商「淀屋」。江戸時代の大坂で米市場を立ち上げるなど繁栄を極めたが、その豪奢な生活ぶりが見とがめられ、宝永2（1705）年に關所（けっしよ）取り潰し）処分を受けた。

東岩倉町に残る旧牧田家住宅（市指定保護文化財）は、主屋が宝暦10（1760）年に建設された、倉吉に現存する最古の商家建築で、倉吉市によって保存修理工事が行われ、付属屋と共に一般公開されている。また、新町1丁目の大蓮寺には歴代の淀屋清兵衛の墓が残されている。

この「牧田淀屋」の活動の詳細は不明だが、牧田淀屋から出た淀屋清

伯耆安綱

ほうぎやすつな

大原に居を構えたと伝わる平安時代の刀工。伯耆国で活動し、国宝「童子切」などの名刀を作刀したことで知られる。

童子切は「天下五剣」（数ある日本刀の中でも名刀中の名刀と評される5振の刀のこと）の一つとされる。平安時代、丹波国の大江山に住み着いた鬼・酒吞童子の首を源頼光がこの刀で切り落としたという伝承から「童子切」の名がついた。室町時代には足利将軍家に伝わり、豊臣秀吉、徳川家康

など時の権力者に受け継がれた。北野天満宮に伝わる「髭切」なども安綱の代表作。

安綱は伯州刀工の始祖と言われ、その一門には子とされ、平家に伝わった名刀「抜丸（ぬけまる）」を作刀したとされる真守（さねもり）や安家などがある。

ただ伯耆国内での居住地は県西部という説もあり、定かでない。

長谷寺

はせでら
仲ノ町二九六〇
八五八一三三〇一三三二七

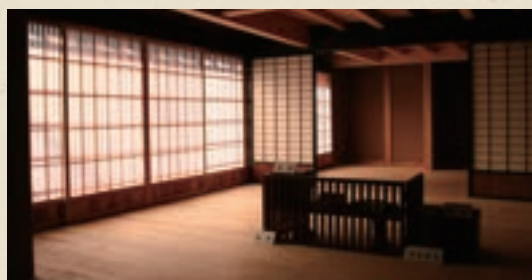
倉吉のシンボル「打吹山」の中腹に天台宗の古刹・長谷寺がある。養老5（721）年に開山し、後に現在地に移されたとされる。

室町時代に造営されたとされる本堂（県指定保護文化財）は寄棟造の懸造（かけづくり）で、堂内には室町時代後期に造られた厨子（国指定重要文化財）が置かれている。厨子は入母屋造、こけら葺きの大型のもので、内部には本尊の木造十一面観音菩薩坐像（市指定有形文化財）が安置される。

長谷寺を特徴づけるのが絵馬群。享祿4（1531）年から明治時代までの奉納絵馬63点が県の有形民俗文化財に指定されている。馬の絵をはじめ武者絵、風俗画、歌舞伎絵、宗教画など多種多様で、庶民の信仰や当時の風俗などをうかがい知ることができる貴重な資料になっている。描かれた馬が夜な夜な絵馬から抜け出して城下に現れたなどの伝説もある。



犬田 憐寛（いぬた やすひろ）
© 倉吉八犬伝 / 倉吉観光 MICE 協会



工芸の郷・倉吉

くらしがすく

倉吉絣

かつての倉吉の繁栄を支えた倉吉絣。いったんは工業製品に押されて衰退し、一部の技術は失われてしまった。しかし、倉吉市の染織家吉田たすく（祐さん（1922〜1987年））はこれを再現しようと、市内の旧家に残された織物の伝書などを発掘し、解説、国内外の織物を研究して遂には技術の復活に成功した。



倉吉ふるさと工芸館

倉吉絣復活に向けた努力は染織家の福井貞子さん（1932年）、吉田さんの息子の公之介さん（1956年）らによって引き継がれ、倉吉絣保存会設立や鳥取短期大学絣研究室の開設などとして結実、絣の技法を受け継ぐ人の育成にもつながっている。倉吉絣の作品や機織りの技術は「倉吉ふるさと工芸館」で見ることができる。



打吹童子板画

はせがわとみさぶろう
長谷川富三郎
倉吉の工芸に名を残すのが、日本の民藝運動を支えた板画家の長谷川富三郎さん（1910〜2004年）だ。小学校教諭として勤務する傍ら倉吉の文化団体「砂丘社」の同人となって油絵を描くようになり、民藝運動家吉田璋也と出会って民藝運動に参加。柳宗悦、河井寛次郎、棟方志功らと交友するようになり、板画を始めた。「無弟」の号で数多くの板画を残しており、倉吉市内の民家などにも数多くの作品が残っている。

はこた人形（倉吉張子）

はこた人形は江戸時代から受け継がれた倉吉の郷土玩具で、子どもの無事な成長を祈る。技術が途絶えることを恐れた市民らによって保存会が結成され、技法を受け継いだ山脇和子さんと牧田能裕さんが人形作りを継承し、はこた人形工房（倉吉市魚町）で制作に励む。ここでは指導を受けながら人形の顔描き体験ができる。

高木啓太郎

たかぎけいたろう

写真をはじめ墨彩、水彩画、陶芸、書など幅広い作品で知られる高木啓太郎さん（1916〜1997年）。倉吉市新町にカメラ店や民藝品店、喫茶店、蕎麦屋などを展開し、多くの芸術家たちが集った。



《草刈》倉吉博物館所蔵

鳥取民芸木工（倉吉市黒見）

鳥取市の民藝運動家・吉田璋也（1898〜1972年）に指導を受けて民芸木工の道を歩んだ先代・福田祥（あきら）さん（1919〜2004年）。その意思と技法を受け継いだ二代目の豊さん（1949年）が現在も制作に励んでいる。



福田豊（新作民芸椅子）倉吉博物館所蔵

陶芸の郷

倉吉の西部に位置する社地区周辺には多くの窯元が集まり、競うように作陶に励んでいる。その作品はぬくもりのある個性豊かなもので、伝統的なものからモダンなものまでさまざまな作品が生み出されている。



国造焼



かずわやき

上神焼（倉吉市不入岡395）

現在は三代目の中森伯雅さんが作陶に励んでおり、辰砂釉薬を使った赤色の焼物が特徴的。伝統の上に新たな手法を用いた作品が生み出されている



福光焼

上神焼



ふくみつやき

福光焼（倉吉市福光800-1）

昭和55（1980）年、生田和孝に師事した河本賢治さんが窯を開いた。息子の慶さんと共に制作に取り組んでおり、面取りなどの技法を用いたモダンな作品が特徴。



くらしやきはちまんがま

倉吉焼八幡窯（倉吉市八幡町3601-2）

八幡神社の神域にある窯元。父の跡を継いだ小原雅也さんが作陶に取り組んでおり、大山の火山灰を使うなど地域の特徴を生かした作品が生み出されている。



こくぞうやき

国造焼（倉吉市不入岡390）

昭和50（1975）年に開かれた窯で、現在は4代目の山本佳靖さんと花野子さんが受け継ぐ。焼き締めという技法を用いるなどした作品は数々の賞を受賞している。



たまはくやき

玉伯焼（倉吉市大谷茶屋883-174）

2度の中断を経て、現在は3代目の天野博正さんが受け継いでおり、大山の火山灰やわら灰を使って炎のぬくもりを表した作品を生み出す。

工芸品を買うことができる主な店舗（倉吉市内）

倉吉ふるさと工芸館	倉吉市東仲町2606	0858-22-2255	くらし駅ヨコプラザ	倉吉市上井195	0858-24-5333
赤瓦一号館	倉吉市新町1丁目2441	0858-23-6666	Rodzina Kitchen	倉吉市山根557-1	0858-48-1171
COCOROSTORE	倉吉市魚町2516	0858-22-3526	打吹焼（倉吉市新町1丁目2443）		
はこた人形工房	倉吉市魚町2529（夢倉内）	090-1185-9732	伝統の工芸品ではないが、赤瓦十号館陶芸館では観光客でも気軽に陶芸を体験でき、電気炉で焼いた作品を買い求めることもできる。		
民芸 TAKAKI（土蔵そば）	倉吉市新町1丁目2429-5	0858-23-1821			

倉吉歴史探訪 パンフレットMAP

里見忠義とその家臣たちは慶長19(1614)年、安房国館山藩を離れて倉吉に移ります。倉吉での居住地も転々とするなど苦難を味わいますが、その中であって忠義らは里見家の再興と武運を祈るなどして寺社の保護に努めました。忠義は8年後の元和8(1622)年には29歳の若さで亡くなりますが、倉吉市とその周辺には忠義らの足跡が今も残されています。



山長神社

(倉吉市森142)

忠義が社殿を修復したといわれる神社。



里見忠義主従之廟

(倉吉市関金町堀)

忠義と八人の家臣をまつる廟。「里見屋敷のシイ」(倉吉市保存樹)の根元に立つ。



旧国鉄倉吉線廃線跡
泰久寺駅跡

北条八幡宮

(東伯郡北栄町北尾365) 0858-36-2612

忠義が、源氏の守護神である八幡神をまつる社殿を修復することで自身の武運長久と安房国への帰還を祈ったとされる。



北野神社

(倉吉市北野712)

衰退していた神社を忠義が再建したと伝わる。



はちお

©倉吉八犬伝 / 倉吉観光 MICE 協会

関金都市交流センター

(倉吉市関金町関金宿1139) 0858-45-2000

八大士の紙灯りを展示。例年、倉吉せきがね里見まつりのメイン会場となっている。



白壁土蔵群

倉吉市打吹玉川伝統的建造物群保存地区

赤瓦一号館

(倉吉市新町1丁目) 0858-23-6666

八大士の紙灯りを展示。鳥取県内各地の多種多様な土産品を取り扱う。



勝宿禰神社

(倉吉市下田中町113)

忠義が神坂村から移された際の住居はこの神社付近であるといわれており、隣接の民家には「里見井戸跡」がある。



大岳院

(倉吉市東町422) 0858-22-4541

倉吉に配流となった忠義がしばしば通ったという曹洞宗の名刹。忠義の死後、遺言により大岳院に葬られ、後に殉死した八人の近臣の遺骨とともに眠っている。

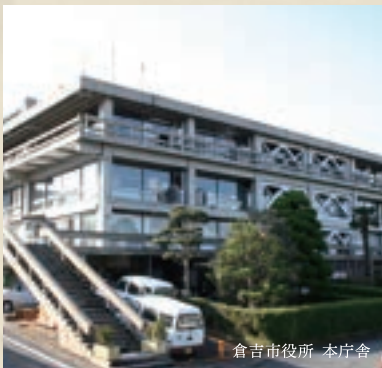




豊田家住宅



白壁倶楽部



倉吉市役所 本庁舎



賀茂神社

数多くの登録有形文化財

国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている地域やその周辺には国や県の指定を受けた数多くの文化財の建物が存在する。小川家住宅、高田家住宅及び醸造施設、協同組合倉吉大店会(白壁倶楽部)、豊田家住宅、大社湯、山陰民具、丸井家住宅、旧小倉家住宅、旧高多家住宅、旧倉吉町水源地、賀茂神社本殿などがあり、倉吉市役所本庁舎も登録有形文化財。



緑の彫刻プロムナード

旧国鉄倉吉線跡を整備した緑の彫刻プロムナードには、「倉吉:緑の彫刻賞」を受賞した作家らの野外彫刻作品15点が並ぶ。



銅製獣頭



史跡・大御堂廃寺跡

7世紀中ごろの創建と推定される山陰最古級の古代寺院。発掘調査の結果、塔、金堂、講堂、僧房などの主要な建物や、木樋と溜枧からなる上水道施設が確認された。さらに朝鮮半島とのつながりを感じさせる銅製の獣頭や匙(さじ)をはじめ、先進的な仏教文化を示す多くの出土品が見つかった。出土した土器の墨書から「久米寺」という寺名であったことが判明した。

市内にはこのほか、塔跡が国の史跡に指定されている大原廃寺跡、さらに石塚廃寺跡、藤井谷廃寺跡、広瀬廃寺跡などの古代寺院跡が点在する。

アート格納庫M

令和6(2024)年にオープンした私設の常設ギャラリー。企画展示では地元ゆかりの作家や若手アーティストの作品を展示する。



円形劇場くらよし フィギュアミュージアム

昭和30(1955)年に明倫小学校校舎として完成し、現存するものとしては国内最古の円形校舎を活用した施設。市内にあるフィギュアメーカー・グッドスマイルカンパニーの作品をはじめ、さまざまなフィギュア作品を一堂に展示する。



エースバックなしっこ館

かつて鳥取県が全国1位の生産量を誇った梨をテーマにした博物館。梨の栽培の歴史を知ることができるほか、1年を通してさまざまな梨の食べ比べができる。



鳥取県立美術館

令和7(2025)年3月にオープンした。建物は建築家・槇文彦さんの事務所が手掛け、巨大な吹き抜けの空間「ひろま」や外側の「えんがわ」により隣接する史跡・大御堂廃寺跡とつながる。



旧国鉄倉吉線廃線跡

かつて倉吉駅から関金の山守駅まで約20キロを結んでいた旧国鉄倉吉線。昭和60(1985)年に廃線となったが、今もレールやホーム跡が残っている箇所がある。特に関金にある泰久寺駅跡から山守トンネルまでの区間は竹林の間に線路が走り、幻想的な風景が広がっており、「日本一美しい廃線跡」とも言われる。また旧打吹駅近くには倉吉線に関する資料や写真などを展示する倉吉線鉄道記念館がある。



関金温泉

三朝温泉に次いで全国2位の含有量を誇るラジウム温泉。無色透明なお湯から「白金の湯」とも呼ばれる。温泉旅館1軒と温泉施設「せきがね湯命館」、関の湯共同温泉、令和7(2025)年春開業のHOTEL星取テラスせきがねが営業している。



打吹公園

倉吉のシンボル・打吹山のふもとから中腹にかけて広がり、明治37(1904)年に整備された。桜やツツジの名所として知られ、市民の憩いの場として親しまれている。



飛龍閣

明治37(1904)年に当時の皇太子(後の大正天皇)行啓に向けて御座所(宿泊所)として建設され、明治40(1907)年に実際に使われた。国の登録有形文化財。



大瀧山地蔵院

鎌倉時代の作とされ国の重要文化財に指定されている木造地藏菩薩半跏像(総高360センチ)が安置される。



犬飼 信戯(いぬかい しのぎ)
© 倉吉八犬伝/倉吉観光 MICE 協会



倉吉里見時代行列



犬村 礼采 (いぬむら あやと)
© 倉吉八犬伝 / 倉吉観光 MICE 協会



「ファン」と「まち」が一緒に八人の男子達を推していくことを楽しむ、聖地巡礼型オリジナルキャラクター作品。キャラクターを演じるのは赤羽根健治さんら8人の豪華声優陣。倉吉に伝わる「八犬士」のモデルとなった「八賢士」の伝承から着想を得て、倉吉オリジナルの現代版八犬伝を立ち上げました。時代を越えてやって来た個性豊かなキャラクターたちが倉吉を舞台に活躍するドラマツアーを『倉吉八犬伝』公式YouTubeチャンネルで公開中！

©倉吉八犬伝 / 倉吉観光MICE協会

冊子内のキャラクターイラストは、倉吉八犬伝に登場するオリジナルキャラクターです。



YouTube



HP



倉吉せきがね里見まつり 倉吉里見時代行列

里見忠義と家臣らをしのぶため、倉吉市ではさまざまな催しが開かれている。

昭和61(1986)年に始まったのが「倉吉せきがね里見まつり」。まつり当日の午前、忠義主従の廟がある関金町堀で関係者が玉ぐしを捧げるのに続き、里見家墓所のある大岳院では忠義主従を弔う法要が営まれる。

続いて手作り甲冑をまとった武者姿の人たちが白壁土蔵群周辺を練り歩く時代行列が行われる。大岳院住職から八つの霊玉を授かった八賢士が勝どきを上げて寺を出発、行く手を阻もうとする怨霊・玉梓(たまづさ)から忠義を護りながら練り歩くもので、倉吉せきがね里見まつりが行われる会場へと向かう。

関金町関金宿の市関金都市交流センターで開催される倉吉せきがね里見まつりではステージイベントが行われる。関金の子どもたちなどによるさまざまな演目が披露され、八賢士太鼓や関金子供歌舞伎なども演じられていた。毎年9月第1日曜日の開催。



鳥取二十世紀梨

鳥取を代表する果実「鳥取二十世紀梨」。なかでも倉吉市とその周辺は二十世紀梨の一大産地であり、みずみずしい食感と甘さを誇る。実を煎じて飲めば、喉にいいといわれている。二十世紀梨の終了後もさまざまな品種の梨が出荷される。(期間:8月下旬～9月上旬)



関金わさび

西日本最大級のわさび田、大山を源流とする伏流水で育った関金特産わさび。絶えず澄みきった冷たい水の流れを必要とする「わさび」は刺し身の薬味として使われてきたが、そこには毒消しの働きをすることで生ものによる食中毒を防ぐという生活の知恵が隠されている。つーんと鼻に抜ける独特の味は日本を代表するハーブともいえる。

倉吉プリンスメロン

“果肉が厚い、糖度が高い、日持ちがよい”と三拍子そろったメロン。倉吉市では、農薬の回数を減らしその代わりにミルク(脱脂粉乳)とブドウ糖を散布することで、樹勢維持を図る、安全で健康、そして環境にやさしいメロンを作っている。(期間:5月中旬～6月上旬)
(特別栽培農産物・鳥取県認証登録)



うつぶきこうえん

打吹公園だんご

明治時代から続く倉吉を代表する銘菓。白餡、小豆餡、抹茶餡の三種で包まれた三色団子がなんととも素朴で愛らしい。石谷精華堂ほか、市内土産店で販売。



くらしごくみすいか

倉吉極実西瓜

倉吉特産の極実西瓜は、スイカ本来の味と食感を極めるためにスイカの台木にスイカを接いで栽培。手間ヒマのかかる栽培方法だがその分だけ味は保証されており、倉吉の恵まれた土壌で極めたスイカとしてブランドになっている。シャリ感を持ちながら、柔らかい食感が人気。《出荷時期》6月下旬ごろ～7月上旬ごろまで



牛骨ラーメン

地元倉吉で戦後から食されている牛骨からダシを取ったご当地ラーメン。市内には専門店がいくつもあり、各店で工夫を凝らした牛骨スープの旨みを堪能できる。倉吉で愛されるソウルフード、ぜひ一度ご賞味あれ。



犬坂 乙智 (いぬさか きさ)
© 倉吉八犬伝 / 倉吉観光 MICE 協会